

新しい年を迎えて

代表理事 村井 宏

大雪の中で新年を迎えました。盛岡の年末の積雪量が70cmを超え、12月の観測資料で最大値になると報道されています。除雪作業は年とともに身にこたえます。地球温暖化の中で、多雪寒冷は反対現象のように思われますが、この気候変動の大きさがその兆しやもしれません。それにしても昨今は世界でも国内でも、自然災害や大事故が頻発し、また、人間相互に信じられない事件が多発し、被害者の方々のお気持ちをお察しするとき、そのたびに悲しい思いをいたしております。

私たちの団体が標榜する「安全で心豊かな地域社会の創造」とは、全く相反することの連続で日常行動の、力の及ばないことに対して残念な気持ちで時を過ごしてしまいました。この一方、身の回りに目や耳を傾けると、景気回復の動きが人々に反映し、飽食と大量消費の時代の再来が予感され、環境保全への努力が軽視されそうな気配がします。しかし、私たちはこのような流れにひるまず、棹さしながら頑張るしかありません。

こういった中で、一つ救われる思いをしたのは、カナダ・モントリオールで開かれた京都議定書締結国会議で、2013年以降の地球温暖化対策を議論する「対話の場」を設置することで、合意されたことです。かたくなに復帰を拒否する米国に、対話に参加させることを合意させました。議長国のカナダのマーティン首相が、米国を名指して「地球的良心というべきものに、耳を傾けるべきだ」と述べたことに感銘するとともに、正しいことを真正面からいう勇氣に欠けてはならないことを教えられました。

新しい年にあたり、私たちの「環ぱい」は持続的な発展に向けて、変革と充実が迫られています。相互に信頼感を大切にしながら、地域の人々とできるだけ対話を重ね、地域貢献できる道をトレースしていきたいものです。理事各位には実質的活動へ参加を、一般会員の皆様には、それぞれの地域で環ぱいの輪を、広げるようご一層の努力を期待してやみません。2006年の年頭に当たり会の発展と皆様のご清栄を祈念し、ご挨拶と致します。

環境パートナーシップいわて 岩手県環境基本計画 市民提案プロジェクト
H17年度 第1回ワークショップ

「岩手県環境学習推進基本方針見直し案への市民提案」

平成5年3月に策定された「岩手県環境学習推進基本方針」も、13年の時を経て内外の状況に対応できなくなってきましたので、県では本年度は見直しを行ってきました。

私たちは、将来の岩手県の環境を望ましいものにするために、学校や地域での環境学習についてどんどん意見を出して行こうとするものですので、これを機会に、集まっている様々な意見を交換し、ともに考えて行きたいと思えます。無料ですので、どうぞお時間を作ってご参加下さい。

【日 時】 2006 (平成18) 年1月29日 (日) 13:30~16:30

【場 所】 岩手大学教育学部2号館4階会議室

【内 容】 岩手県環境学習推進基本方針見直し案の説明/市民提案のためのワークショップ

【説 明】 梶原昌五 (岩手県環境学習推進基本方針検討委員会会長)

【資 料】 こちらで用意しますが、インターネットで読めますので、事前に読んで来ていただければ幸いです。

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0315/gakusyuu/housinpubukome/top.htm>

【申込・問合】 名前・所属・連絡先をFAXまたはメールで。※事前申込をお願いします。

NPO法人 環境パートナーシップいわて (梶原)

FAX: 019-621-6556 e-mail: skaji@iwate-u.ac.jp

南米アルゼンチンのパタゴニアは年間降雨量が約250ミリ程度と少なく雲を引きちぎるほどの強風が南極大陸から吹きつける。

アルゼンチンは牧畜が盛んで、パタゴニアの乾燥地帯でも牧羊が営まれている。しかし、砂漠化が進行しているため、必ずしも牧畜に適しているとはいえない。低木と円盤状の僅かな草を羊が食べている。そのような土地で1900年代は羊一頭に1ヘクタールの面積で牧羊飼育がおこなわれていたが、砂漠化の進行によって2003年現在、羊一頭に3～4ヘクタールが必要だという。

2004年12月に訪れたヨルダンのシリア砂漠地帯で世界遺産に指定された宮殿は土壁造りの建物で、見事な大理石の浴場跡を見学した。宮殿跡には四つの浴場があり、浴場に使われた水は付近の泉から導管によって送られ貯水槽に蓄えられていた。また、燃料は周囲の森林を伐採して使用されて湯とサウナが絶え間なく使われていた。

近年になって当時の豪華な設備や召使の宿泊施設が周囲の砂漠の下深くから発掘されて再現されることになった。

レバノン、シリア、ヨルダンの世界遺産と称する遺跡には、必ずローマ帝国が建設した豪華な設備の浴場跡がある。浴場の燃料は木材を薪として使用されていたほかに、日常の生活にも膨大な量の薪が消費された。勿論、無計画な森林伐採が行われたと思われる。

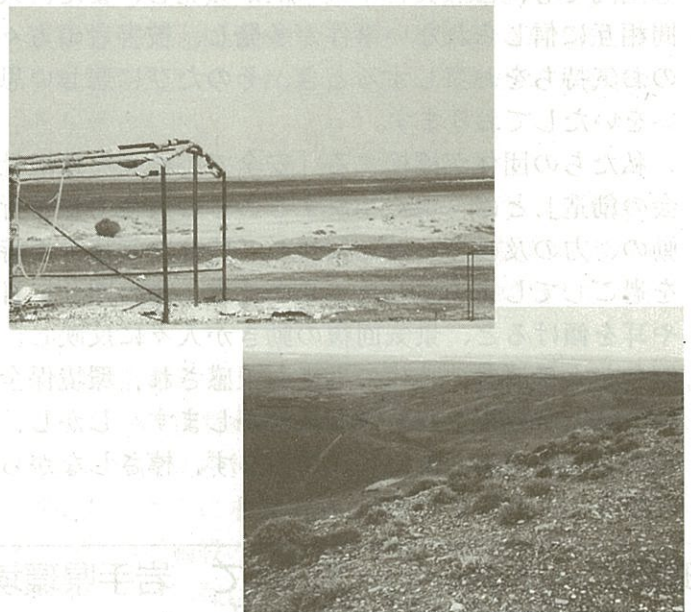
その典型がレバノン杉である。国土一帯に繁茂していた杉は石造りの建築の梁材や祭祀に欠かせない聖木に珍重され、外洋船の船材となり輸出品として

も莫大な富をもたらした。

エジプトの貴族の遺骸を納める柩はレバノン杉であり、シリアにある世界最古のモスクの太い梁材もレバノン杉が使用されている。乱伐されたレバノン杉は現在、国を挙げて植林育成が行われている。

砂漠化は今世紀地球規模の大きな課題。要因は気候変動のほかに過度の放牧の増加や過度の農耕地の開拓、人口増加と燃料確保による無計画な森林伐採など、人為的なことが指摘されている。

世界の乾燥地は陸地の約31%を占めていて砂漠化の危険に直面している。砂漠化によって世界人口の約6分の1が影響を受けているという。世界で毎年ポルトガル1国分の森林が消失している。特に熱帯林の急激な減少で、他の乾燥地帯や半乾燥地帯も砂漠化する可能性が大きいという。



深刻な砂漠化が各地で進行している

キャンドルナイトキャンペーン「でんきを消してスローな夜を」

渡辺 彰子

12月22日（冬至）に向け岩手県地球温暖化防止活動センターは、12月8日～16日をキャンドルナイトキャンペーン実施の日にしました。岩手県内では、盛岡市、水沢市、葛巻町、岩泉町、一関市などでキャンドルナイトが実施されました。

既存の団体を支援しながら県内のキャンドルナイトを拡大するために「でんきを消して、スローな夜を」のスローガンステッカーを車につけてキャンドルナイトキャンペーンを展開しました。

毎年使えるマグネットのステッカーを4枚作りました。

詳しくは、100万人のキャンドルナイトinいわてブログをどうぞ

<http://blog.candle-night.info/>



キャンドルナイトキャンペーンキャラバン隊

○地球温暖化防止活動推進員等研修事業（第3回 専門知識習得研修）開催

日時：平成18年2月10日（金）11:00～16:30

場所：岩手県環境保健研究センター&アイーナ

- (1) いわて県民情報交流センター（アイーナ）見学（希望者）
 - (2) 講演会 テーマ 「環境配慮行動に関する個人の意思決定」
 講師 野波 寛氏（関西学院大学社会学部助教授）
 内容 異なる利害を持つ人々を合意形成に導く心の働きかけ方を学びます。
 - (3) 講演会 テーマ 「インタープリターの役割とその技法」
 講師 山本かおり氏（全国地球温暖化防止活動推進センター職員）
 内容 インタープリターは直訳すれば「解釈者、説明者、通訳者」
 単なる情報提供ではなく、体験や教材を通して環境の相互関係を手助けする人でもあります。
 その役割などを学びます。
 - (4) 平成18年度の県事業「地球温暖化対策プロジェクト」について
 講師 浦上 哲朗氏（地球温暖化対策・エネルギー担当課長）
- 地球温暖化防止活動推進員等の研修会ですが、会員の方も参加できます。
 問い合わせ 岩手県地球温暖化防止活動推進センターTel 019-635-5567 fax 019-656-5671

○都道府県センター普及啓発広報事業

「いわて発 ストップ温暖化」の冊子を作成しました。

県内各地で温暖化防止を実践している事例を取材したものを冊子にしました。この冊子を教材に県内4ヶ所（葛巻町・紫波町・西和賀町・山田町）で（仮称）地球温暖化防止活動の講演会開催予定です。

○リーフレット作成中

いわて県民情報交流センター（アイーナ）の5階 環境学習交流センターに岩手県地球温暖化防止活動推進センターが入ります。県民のみなさんに愛される環境学習の拠点としてまた機能が果たせる場として現在準備を進めております。

地球とお話ししましょ キャンペーンを展開中！

NPO法人環境パートナーシップいわては、地球温暖化防止の取り組み等を読み聞かせ（紙芝居）とIBCテレビ、ラジオ、岩手日報などのマスメディアを通して県民に情報発信を行なっています。

読み聞かせ（紙芝居）・・・①地球がたいへんだ～！ ②電気のちようび
 滝沢東小学校・12月12日 山岸小学校・12月19日
 IBCロビー・1月14日 あかばやし探検隊・1月22日



紙芝居台本＝環ぱい、
 絵＝デザインスタジオTAG
 読み聞かせ＝環ぱい・トトロの会

環ぱい活動風景

IBCラジオ 平成17年12月7日、14日、21日
 平成18年1月11日、18日、25日（予定）
 IBCテレビ 平成18年1月28日（15時30分～）放映予定

実施期間 17年11月～18年1月

これは、地球温暖化防止国民運動（チーム・マイナス6）におけるNPO・NGOなどの民間団体とメディアとの連携支援事業によるものです。



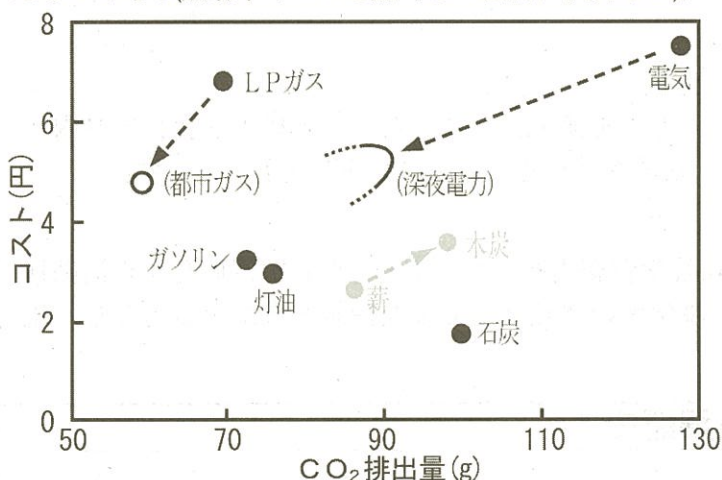
TVでおなじみTAGさんも登場しました

県民と森林（林業）は、地球温暖化防止にどのように貢献できるか？（その3）

地球温暖化防止活動推進委員 川村晃寛（森林インストラクター）

環境家計簿をご存知でしょうか？

家庭の電気やガスやゴミなどの消費を集計し、そのCO2排出量を換算して記録するというもので、温暖化対策や省エネ、ゴミの減量などの意識向上と実践を図るものです。これによると個人や家庭が直接間接問わず排出するCO2の総量や削減量が一目瞭然ですが、果たしてその削減量がどれほど温暖化防止に貢献しているのでしょうか？また、「灯油はCO2を排出するので電化住宅が良い？」、「薪や炭の利用は森林資源を枯渇させるし、CO2の排出源になるので使用は控えた方が良い？」等のエネルギー選択の疑問にも答えることが出来ません。そこでエネルギーの利用の真相について、簡単に考えてみましょう。下図は0℃、1リットルの水を沸騰させるエネルギー(100kcal)別のコストと、その時のCO2排出量を示したものである(熱効率やロスを加味して独自に試算した)。



注) ・薪はそれを集める労力をコストに換算した
・電気は電熱器を使用した場合。それ以外は全て直接火力

電気がコスト、排出量とも突出しているのが判りますね。この中で電気のみが直接燃焼の形を取らず、火力エネルギーや核エネルギーを電気エネルギーに変換し、さらに家庭でそれを熱エネルギーに変換し

ているので、効率が悪いのです。また電気は、元を正せば化石燃料(火力)によるものが50%、原子力35%、水力10%であり、それらの施設に使われるコンクリートも実は製造過程でCO2を排出する化石資源なのです。こう書くと電気が一番の悪者になってしまいますが、物事はそう単純ではありません。

とりあえず以下の2点を強調しておきたいと思います。

1. 夜間電力やもっと効率の良い機器（エコキュートなど）を使用した場合、CO2排出量、コスト共約70%程度になる(図の深夜電力)。また技術革新による電力変換効率の向上や、太陽光や地熱、風力等の所謂クリーンエネルギーの発展が、CO2排出量をもっと下げるだろう。
2. 薪炭を燃やした時のCO2排出量は確かに多いが、消費した分と同量の木を植えて育てれば同じ分のCO2を吸収固定してくれる筈である（かつての里山林がそうだった）。

そして岩手県ならではの以下のようなエネルギー事情を考慮すれば、どのエネルギーを優先的に選択したらよいか、ある方向性が見いだせるのではないのでしょうか？

1. 森林面積が東北第1位で、かつて木材を供給した人工林や里山林の比率も高いが、これらの森林の多くは、経済コストに見合わなくなったため放置され、荒廃し、さらに木材価値を損ねている。
2. 県内発電施設の電力エネルギー自給率は28%で、残りの70%強は他県から供給されている。
3. 世帯あたりの灯油消費量は年々増加傾向にあり、盛岡市はより寒冷な札幌市のレベルにまで達しているが、その札幌市の灯油消費量は、断熱を徹底した住宅の普及に伴い年々減少している。（つづく）

「エムズ ファイナンシャル プラニング様からのご寄付」のお知らせ

水沢市のエムズ ファイナンシャル プラニング 代表 住吉 正志氏（本会会員）は、昨年11月15日ホテル東日本（盛岡市）で開催した「第一回天明サロン in 岩手」の収益金の一部31,905円を、当会の活動資金としてご寄付されました。12月28日に事務所へご本人からお届けされ、代表が受領致しました。ご厚意に厚く感謝し、有効に使わせて頂きます。なお、この催しには宮城大学天明 茂教授が「心の経営」と題し基調講演をされ、関係者から高い評価を受けました。従来の企業会計には環境への負荷の視点が欠けたままであるという指摘もあり有意義な講演でした。

編集後記

寒さもインフルエンザの猛威もこれからが本番、という予報に震えてしまいます。皆様の地域はいかがだったでしょうか。

さて、エコアイデアコンクールの募集が締切られ、すぐれたアイデアや標語が多数応募されました。コンクールの表彰式が来る2月25日に盛岡市総合福祉センターにて午前10時半から14時半に開催されます。寒さに負けずにぜひ奮ってご参加ください。お申し込みは事務局まで。

発行：特定非営利活動法人
環境パートナーシップいわて事務局
020-0124 盛岡市厨川5-8-6
TEL 019-643-8570 FAX 019-643-8571
e-mail : kanpai@max.odn.ne.jp